

私たちは、オリンピックをボイコットすべきだろうか？

オンラインでご覧になりたい方は [ここをクリック](#)
PDFでご覧になりたい方は [ここをクリック](#)

このニュースレターをご覧になりたくない方は、[ここをクリック](#)して下さい [ここです](#)

8月3日、米国会議員ダナ・ローバッカー氏 (Dana Rohrabacher) は、2008年の北京オリンピック・ボイコット決議案を提出した。

彼は、「オリンピックは、人間の最も崇高な精神を象徴するものだが、中国政権は全くその反対である。オリンピックのトーチ・リレーは、人類の向上を導く灯火となるはずだったが、そのトーチを世界でも最悪の人権侵害を行っている国家がホストするとは滑稽である」と述べた。

2007年3月28日、女優で国連児童基金の大使、ミア・ファローと彼女の息子は、北京オリンピックについての記事を [ウォール・ストリート・ジャーナル](#) [1] に寄せた。ファローは、2008年のオリンピックを「ジェノサイド・オリンピック」と名付け、キャンペーンを繰り広げた。彼女の率直な意見は、世界中の人々を目覚めさせ、中国政府による残虐な行為がかつてないレベルにまで広がっており、同政権が深刻な人権侵害を侵していることが浮かび上がった。



法輪功を修煉していたとして、拷問され、死の淵に追いやられた魏鳳拳さん。体が回復しないまま、2007年7月11日にこの世を去った

中国は、ダルフールを資金援助しているだけではない。1999年から、中国共産党政権は8年にわたって、7千万人はいたといわれる法輪功学習者を根絶しようと試みてきた。同政権は、民主主義者、弁護士、人権擁護者、宗教のリーダー、ジャーナリスト、労働組合、チベット仏教徒、ウイグル人、クリスチャン、中国政権に異議を唱える者なども弾圧してきた。

2004年、宗教・信仰に関する国連人権理事会特別調査官であるアズマ・ジャハニール氏 (Azma Jahangir) はその報告書の中で次のように述べている。「調査官は、中国で拘束されている人の死亡例に警鐘を鳴らす。収容されている人たち、そのほとんどは法輪功学習者たちだが、彼らは残酷な扱いを受けたり、放置や医療措置をしないとされた扱いを受けて、死に至っている。その残虐で、残忍な拷問方法は、絶筆に尽くしがたい。」

国連拷問特別調査官のマンフレッド・ノワック氏 (Manfred Nowak) は中国への訪問を終え、2005年12月2日、記者会見において、中国政権下で使われている拷問方法を詳しく説明した。その方法は多岐にわたるが、主なものは、電気ショック、タバコを押し付ける、看守が殴打を誘導する、下水で溢れた穴に沈める、極端に暑い日や寒い日に戸外に閉め出す、睡眠、食事、水を与えないなどがあった。ノワック氏の報告書は[ここをクリック](#)。 [ここ](#)。

2006年3月、ノワック氏は、中国当局による監禁中に、拷問されている被害者は、その66パーセントが法輪功学習者であると報告した。

中国当局は、人々を無理やり洗脳し、監禁してレイプし、大量の人々から臓器を摘出して必要な患者に移植する。それによって、巨額の利益を得ているのだ。

2007年3月20日、ノワック氏は、より広範に渡る報告の中で、法輪功学習者からの臓器収奪に関する証言について触れ、「大勢の法輪功学習者が、様々な場所で無理やり臓器を摘出されている。その目的は、臓器移植を必要とする患者に提供するためである」と述べている。

アムネスティ・インターナショナルによると、中国は引き続き何千人もの政治犯を裁判なしに投獄しており、中国で記録されている死刑執行の件数は、世界の80%を占めているという。

2007年8月3日、米国会議員・ローバッカー氏は、決議案610を提出した。「610」という名前は、元中国共産党トップ・江沢民が設立した「610オフィス」に基づいて名付けられた名称で、このオフィスは、法輪功を迫害するために設けられ、全ての政治的・法的システムを超えた権限を与えられていた。

ローバッカー氏の決議案610は、「中国政府が市民に対する深刻な人権侵害を止め、更にスーダン、ミャンマー、北朝鮮を支援することによって間接的に深刻な人権侵害に関わることを止めない限り、米国は北京オリンピックをボイコットするよう直ちに行動しなければならない」という内容だった。

ローバッカー氏は更に、「1936年、ナチス・ドイツはオリンピックを開催し、ヒトラーが世界的に彼のファシズムを宣伝した。当時、米国がオリンピックを支援したことは間違いであったと同様に、2008年に、名誉あるイベントを同じくファシズム的な政権が開催することを支援するのは間違いである」と主張した。

中国共産党は、その恐ろしい人権侵害のために2000年におけるオリンピック開催権を失った。そこで中国政権は趣向を変え、人権を大幅に改善すると公に約束し、2008年のオリンピック開催権を勝ち取った。その後、その約束は裏切られることになった。中国の人権は、まったく改善されておらず、目に余るほどひどくなっている。

中国は、2008年オリンピックのスローガンを「ひとつの世界、ひとつの夢 (One World, One Dream)」と謳っている。我々は、自由と、中国の人権侵害が、共存する世界を本当に夢見ていいのだろうか？

私たちは、ローバッカー氏の決議案を一読することを推奨する。そして、自国の政府にコンタクトをとり、中国が人道に対する罪を犯すことを止めさせて欲しい。

我々の夢は、想像を絶するような虐殺が存在しない世界である。少しでも、その夢に近づけるよう我々は努力しなければならない。



絶え間ない拷問を受け続け、骨と皮ばかりになった張曉洪(29)さん。死亡当時、体重はわずか31キロだった。



[1] [「ジェノサイド・オリンピック」](#) ローナン・ファロー/ミア・ファロー

[2] 同上

[3] 決議案の全文:

http://www.consciencefoundation.org/index.php?option=com_content&task=view&id=89&Itemid=121

[4] 北京オリンピックの入札に参加した劉敬民は、2001年4月、「北京政府にオリンピックを開催させれば、人権が大幅に改善することになる」と公言した。

“貴方は、どちらの側に立つのだろうか。沈黙は、抑圧する側を助けることになり、被害者側ではない。沈黙は、苦しみを与える側を助長させ、苦しめられる側ではない”

“時として、我々は介入しなければならない。人命が危険に晒されている時や、人間の尊厳が脅かされている時、国家間の問題とか、国境などは無関係だ。なぜなら、いつでも人間が、民族、宗教、政治的な思想などの理由で迫害される時、その瞬間、そこは宇宙の焦点となるからだ”

[エリ・ウィーゼル](#), ホロコーストの生還者で、1986年にノーベル平和賞受賞。40冊以上の著作がある

“我々は、21世紀に再びスターリンの悪夢を目の当たりにしている。何百、恐らく何千という人々が、拷問によって死亡しており、何千人もが裁判もなしに刑務所、労働所、収容所、精神病院に送られて拷問と洗脳に耐えている。究極なのは、中国当局による臓器収奪、臓器売買という恐ろしい政策だ。中国の衛生省によると、1993年以来、中国で6万5千件の臓器移植手術が行われたという...”

クリス・スミス, 2006年4月19日、下院外交委員会

<http://www.foreignaffairs.house.gov/archives/109/27067.pdf>

“ワールド・カップがドイツで開かれるが、北京も2008年のオリンピック開催に向けて準備を進めている。しかし、もし、元囚人が私に話してくれたことが本当に中国で起こっているとしたら、国際社会は中国を遠ざけるべきだ”

エドワード・マクミラン・スコット、欧州議会副議長、2006年6月13日付け手紙ヨークシャー・ポスト・トゥデイに掲載

<http://www.yorkshiretoday.co.uk/ViewArticle2.aspx?SectionID=97&ArticleID=1560709>

“今日の中国は、昨日の中国より悪く、去年よりも、過去10年よりも悪くなっている。中国は、前進しておらず、退化している。中国は、より暴力的で、抑圧的で、民主主義の価値観に抵抗するようになっている。それは、中国製品が我国へ輸入され始めた当時よりもひどい。”

“... このような、おぞましい行為があるにも関わらず、中国は2008年のオリンピックを開催するという榮譽にあずかれるのだ。オリンピック・ゲームとは—“教育的な価値観として、よい模範を示し、基本原則である倫理的な原則を尊重する”と憲章に謳っている。果たして、中国の行いは、世界の模範と言えるだろうか？全世界が求めるべき“基本的、倫理的原則”が、反映されているだろうか？”

“アメリカは、基本的な礼儀と人権をわきまえて、そのために立ち上がる国家でなければならない。アメリカは、自分のために話をする人ができない人たちのために、話さなければならない。我々の外交政策は、人権と自由の促進を助けるものでなければならない。自分の市民を抑圧する独裁者を助ける政策であってはならない”

米国会議員 フランク・ウルフ 2007年7月16日、下院議院にて

<http://wolf.house.gov/index.cfm?sectionid=34&parentid=6§iontree=6,34&itemid=961>

臓器収奪に関する国連報告書

<http://falunhr.org/reports/UN2007/UN-07-Organ.pdf>

オンラインで署名する方は、ここをクリック:

<http://www.falunhr.org/te/index.php?signature=1<=jp>

事件の背景:

[法輪功とは?](#)

[なぜ中国で迫害が起こったのか?](#)

[中国における近年の迫害の状況](#)

[全てのニュース・レターをオンラインでご覧になりたい方はここをクリック](#)

Falun Gong Human Rights Working Group
9974 Scripps Ranch Blvd. #228, San Diego, California, 92131, United States
Phone: 619-280-5177, Fax: 619-280-4931, E-mail: contact-japan@falunhr.org